

3 言語活動の工夫

(1) 領域統合的な言語活動

こんな実践

写真や絵について、そこから分かることを単語でメモした上で、聞いている相手に伝わるように英文で説明 (Picture Describing) する活動です。活動内には、考える・話す・聞く・書くなどの場面があり、複数の領域を行き来しながら願う姿に近づいていく実践です。

この単元で願う姿は、英語で話すこと (説明すること) ですが、活動を行う過程では、友の話す英語を聞き取って自分のメモを追加したり、自分や友が話した英語を英文で書き出したりするなど、英語で話すこと以外の技能も使います。

また、『相手意識』を大切にしており、生徒は、写真や絵についての説明を聞く相手がどのような人なのか (日本の中学生、ALT、初めて日本に来る外国人など) によって使用する語や情報を試行・判断・表現する必要が生まれるように場面設定をします。

実践学校 I 中学校 (学級数: 2 生徒数: 70)

実践学年 1 学年

実践時期 12 月

単元名 “School Life in the USA” ～DetectiveICCHY～

学習指導要領との関連 話すこと[発表]イ

- このレッスンでの Lesson Goal は、「写真や絵について、自分や相手に分かる英語で説明しよう」としました。
- 単元においては、生徒の説明が少しずつ難易度を増していくように、教科書にある写真から一般的な写真へ、更に自分の生活に関わる写真になっていくような設定とし、各場面で共有の時間をとることで、互いの発表から学び合えるようにしました。

<単元展開の概要>

時	内容
1	Picture Describing に挑戦し、単元の見通しをもつ。
単元を通して、Pair Training(*1)と Quick Q&A(*2)を交互に取り入れる。	
2	アメリカの教室の一風景の写真 (教科書 Get Part 1) について説明する。
3	級友の作った英文を読んで共有し、よいと思う情報・表現を取り入れる。
4	ペアを変えながら置き換え対話練習をし、現在進行形の形を知る。
5	マイクの授業の写真 (教科書 Get Part 2) について説明する。
6	級友の作った英文を読んで共有し、よいと思う情報・表現を取り入れる。

7	ALT との活動の中で，現在進行形の使い方に慣れる。
8	リサの生活を示す3つの写真 (教科書 Use Read) について説明しよう。
9	級友の作った英文を読んで共有し，よいと思う情報・表現を取り入れる。
10	自分の選んだ I 中学校の出来事の写真について説明する。
11	I 中学校の出来事の写真について，発表し合い，共有する。

<本單元における Can-Do リストの形での学習到達目標>

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 (ア)	外国語表現の能力 (イ)	外国語理解の能力 (ウ)	言語・文化に関する 知識・理解 (エ)
写真や絵を見て，相手に伝わる英語で説明しようとする。	写真や絵について，そこから分かる情報を，相手に伝わる英語で説明できる。	(本單元では，評価しない。)	現在進行形を使った肯定文・疑問文・否定文の意味と構造，使用場面を理解している。

<Picture Describing で扱う写真とそれぞれの段階>

- 生徒が段階的に Picture Describing に慣れていくことができるように，單元の中を4つの段階とし，扱う写真や活動の条件を少しずつ増やしていくこととしました。

段階	1	2	3	4
写真				
相手	級友 日本の中学生 同じ写真	級友 日本の中学生 同じ写真	級友 日本の中学生 違う写真	外国人 日本は初めて 違う写真
備考	写真は1枚。全員が同じ写真をもっているため，情報や英文の共有ができる。	写真は2枚。全員が同じ写真をもっているため，情報や英文の共有ができる。	写真は4枚。4人グループで全員違う写真をもっているため，情報共有はグループを超えて同じ写真をもつ者同士で行う。	写真は6枚。自分自身で説明できそうな学校の出来事の写真を選ぶ。グループを超えて情報を共有し合ってもよい。

- この活動は、中学1年生の Lesson 7（現在進行形）を学ぶ単元で扱いました。写真には何らかの動作が撮られた場面が映し出されます。それを描写・説明する際には必然的に現在進行形を使用します。
- 単元終了時には、話す力を高める中で、自然と文法の力も付けられるような単元展開をするように心がけました。

単元展開をつくる中で大事にしたことは、①写真から分かる事を考えてメモし、英文を書かせずにメモを基に写真について英文で説明し、友の英文も取り入れながら3回説明を繰り返すというスモールステップを設けたこと（この間に、互いに英文を聞き合うため Listening の活動の要素も加わる）、②一連の同じ活動を、写真を変えながら繰り返し行ったことでした。

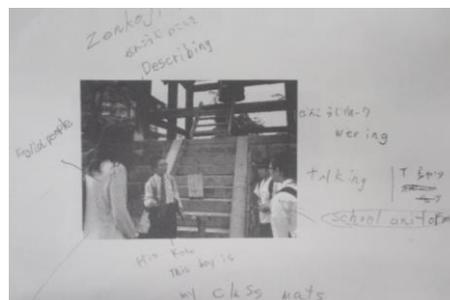
こうすることで、生徒は、活動の内容に慣れてくるためスムーズに活動を行えるだけでなく、繰り返し同じ活動を積み重ねることによってだんだんと考えを深めたり、表現を広げたりすることができるようになります。



ここがポイント！

活動の流れを、スモールステップを踏み、少しずつ難易度を上げていきましょう。
同じ流れの活動を単元の中で繰り返し行いましょう。

- 本時の Today's Goal は「自分の選んだ写真について、相手に分かる英語で説明しよう」としました。
- M 生は、クリアウォーターからの留学生に紹介したい学校の出来事として、総合的な学習の時間で行った「善光寺を英語で案内しよう」の写真を選びました。



5分間の準備時間では、この写真について、talking / describing / Zenkoji temple / the boy / classmate などの英単語をメモしました。

メモをする中で、教師が、相手がクリアウォーターからの留学生であることを確認すると、『授業の中で善光寺を案内している活動だ』ということ伝えるために、school uniform や English people や describing Zenkoji のようなメモを付け加えました。実際に Picture Describing するときには、メモをもとに以下のような英語で説明をしました。

<M 生の発表>

This is a picture of Zenkoji Walk. She is English people. He is my classmate. He is describing Zenkoji temple to English people. He is putting on school uniform. This is the class. (原文ママ)

M生は、その写真から分かる情報や自分の経験から言えることについて紹介するだけでなく、相手がクリアウォーターから初めて日本に来た相手という視点から、「制服を着て、授業の中で、善光寺を外国人に説明している」という内容を含めることができました。

- 英語で話す（説明をする）ことを実現するために、単元を通して帯活動として2つの活動を継続的に行いました。

① Pair Training (ペアトレ)

これは、教科書にある表現を英語と日本語で抜き出したシートです。生徒はペアを組み、日本語を言う役と英語で答える役に分かれます。制限時間内(約1分)に、日本語を聞いて英語を言うというトレーニングです。これにより、Picture Describingを行う際に共通理解できる表現が増えるとともに、より幅広い表現を使ってメモをすることが可能になります。

Trial Date: / /		/ /		/ /		
No.	Japanese	English	①	②	①	②
②回目- 進ぼう!		English / Japanese / Random- Straight / Back Straight / Random-	E / J / R- S / BS / R-	E / J / R- S / BS / R-	E / J / R- S / BS / R-	E / J / R- S / BS / R-
1.	学校生活。	school life.				
2.	これらは～です。	these are.				
3.	学生、生徒。	a student / students.				
4.	言葉、言語。	a language / languages.				
5.	言語技術。	language arts.				
6.	読む / 読んでいる。	read / reads / reading [v].				
7.	スピーチ。	a speech / speeches.				
8.	ポスター。	a poster / posters.				
9.	グループで。	in a group.				
10.	友達と話す。	talk with friends [v].				
11.	音楽を聴く。	listen to music [v].				
12.	読書をする。	read a book [v].				
13.	手紙を書く。	write a letter [v].				
14.	漢字を学ぶ。	learn kanji [v].				

また、このトレーニングは、2回目は、English / Japanese / Randomのように答え方を変えたり、Straight / Back Straight / Randomのように進み方を変えたりことができ、自分の判断によって難易度を調整することができるようになっています。

② 困ったときのQA集

これは、対話活動の基本となる Questions and Answers を日常的なものにするために行っています。この単元においては、答えの英文の中に Picture Describing で使えるような表現も多く含まれています。以前使用していたシートは文法ごとになっていたり、学習範囲によって表現を増やしていたりしていました。

しかし、より実際の場面に近づけたものにするために、現在使用しているシートは、場面ごと(「であい」「より興味をもって」「日常生活の中で」「他に広げて」となっています。

※自信をもって言えそうになったら、□にチェックを入れよう!

No.	Question Form (たずね方)	Answer Form (答え方)
Category 1 Encounter (であい)		
1.	Hello. / Good morning.	Hello. / Good morning.
2.	How are you?.	I'm fine. / I'm so-so. / I'm sleepy.
3.	What day is it today?.	It's Monday.
4.	What is the date today?.	It's November nineteenth.
5.	What's your name?.	My name is Taylor Swift.
6.	Where are you from?.	I'm from America.
7.	How old are you?.	I'm twenty seven years old.
8.	What are you?.	I'm a singer.



ここがポイント!

どんな活動を行う際にも、最も大事にしているのは「生徒の意識の流れ」です。そのとき、その場面で、生徒が何を欲しているのかや段階的に生徒が成長していける展開になっているかに常に気を配っていきましょう。

<生徒の感想>

- ・最初は **Picture Describing** も全然できなかったけど、だんだんやっていくうちになれてきた。しかも気が付いたら現在完了形を使っていたので、よい練習になった。
 - ・英語で説明するだけではなくて、人が説明しているのを聞いたり、他の人が書いた英文を読んだりする中で、自分の **Picture Describing** に生かせると思えるものがたくさんあった。
 - ・自分で話した英語を書き出すことで、「ああ、こんなこと言っていたんだ」と分かったし、更に次の時には「もっとこう言おう」という風に振り返ることができた。
- 生徒は、話すという活動をしている際にも、他の技能を駆使しながら学びを深めているということが明らかになりました。



ここがポイント！

今回の事例では、単元の中で「考える」「話す」「聞く」「書く」場面が繰り返し出てきます。自分で話したことを書いたり、書いたメモを基に話したり等、複数の領域を行き来しながらの授業となります。

まとめ

この単元を通して、生徒は、英文や情報について聞いたり、書いたり、話したりする中で理解を深めていました。ある課題を追究し、学びを進めていく中で、スパイラルに複数の領域を行き来することが定着に繋がると感じました。

<Picture Describing の方法>

教師自身の海外研修での経験を基に、自分の家族や学校の写真について説明する場面を授業の中に作りたいと考えました。生徒にとって **Picture Describing** は初めての経験なので、自分が話す英語を想定して準備をし、自分の話した英語を確認したり、新たな視点を得るための友との共有の時間を取ったりしました。

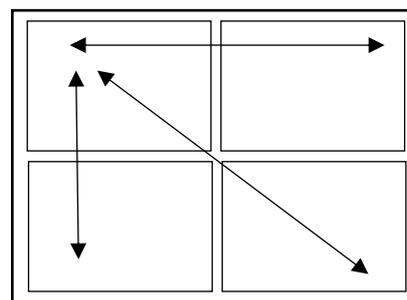
① 写真や絵から分かる情報について、英単語でメモをする

英文で書いてしまうと、生徒はどうしてもそれを読んでしまいます。そのため、メモは全て英単語とし、実際に説明するときには英文で話すというルールにします。絵を見てメモをする際は辞書も使用できますが、その説明を聞く相手の状況によって、辞書を使うと相手にも伝わらないと判断される場合は、できる限り自分や相手の理解できる表現に置き換えるように指示します。写真を見てメモをする時間は生徒の様子によって、5～8分で調整します。



② メモをもとに、Picture Describing をする

実際にメモを見ながら英語で説明をします。この際、生徒は3～4人グループを構成し、合計3回 **Picture Describing** を繰り返します。1回目は向かい側の生徒と、2回目は隣り合った生徒と、3回目は斜め向かいの生徒と行います。順番を決め、前半の生徒が話しているときには後半の生徒は聞き役となります。聞き役の子は、よいと思った情報を赤ペンでメモに追加することができます。1回の **Describing** の設定時間は、40秒です。



③ 自分の話した英語を書き出す

生徒は、3回の **Describing** を終えたあと、約5分間で自分が話した英語を書き出します。

辞書を使うことは可能ですが、スペルを確認するときのみとし、内容の伝達を大切にします。



ここがポイント！

書いてから話すのではなく、話してから書く順番にしましょう。
単語でメモをして、メモを見ながら英文で説明することにあります。
即興的な発話につなげましょう。